

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H01503

研究課題名（和文）就労・有償ボランティア活動を提供する新しい介護施設の計画に関する研究

研究課題名（英文）Research on the planning of a new nursing home by providing employment and paid volunteer activities

研究代表者

三浦 研（MIURA, KEN）

京都大学・工学研究科・教授

研究者番号：70311743

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では先駆的に就労的活動を取り入れた介護施設において、マイクロ・エスノグラフィーにより調査・分析し、金銭的対価が介護保険サービス利用者の生きがいに及ぼす影響として、自信と責任、良いストレス、知識や技術の継承、生活行為の範囲拡大、自己活動の成果認識、社会性の発揮に結び付くこと、また、全国42施設へのアンケート調査から、施設種別による取り組みの実施傾向、取り組み内容別に必要な職員配置や効果認識を明らかにした。さらに、法制度から検証では、教育・訓練的作業従事者の個別的労働関係法（労働契約法、労働基準法等）上の労働者性に係る学説、判例・裁判例を中心に考慮要素を概観し、判断枠組みを再検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

介護サービス利用中の要介護高齢者の就労や地域活動は、今後の共生社会を見据えると、要介護者でも地域で活躍する基盤整備は重要であるが、全国の実態把握や課題抽出が行われていないこと、公的介護サービスを利用した有償ボランティア活動の法令上の解釈や論点が整理されておらず、施策推進の妨げとなっている。本研究から得られた、2022年時点の施設種別ごとの就労的活動の全国的動向や、エスノグラフィーによる分析、教育・訓練的作業従事者の個別的労働関係法上の労働者性に係る学説、判例・裁判例を中心に考慮要素を概観し、判断枠組みを再検討した学術成果は、世界的に見ても先導的な研究成果と考える。

研究成果の概要（英文）：This study explored the integration of work-related activities in care facility programs through micro-ethnography to understand the impact of monetary compensation on the sense of purpose among care insurance service users. The findings showed that monetary compensation enhances confidence and responsibility, positive stress, recognition of self-achievements, and socialization among the elderly. A survey conducted across 42 pioneering facilities nationwide, which had incorporated work-related activities, revealed trends in the implementation of initiatives by facility type, required staffing, and perceived effectiveness.

Additionally, the study reviewed academic theories, judicial precedents, and court cases regarding the worker status of educational and training workers under various labor-related laws (e.g., Labour Contract Law, Labour Standards Law). This legal analysis aimed to overview the factors to be considered and re-evaluate the decision-making framework.

研究分野：建築計画、施設計画

キーワード：高齢者施設 地域包括ケア 労働者性 就労的活動 認知症ケア 共生社会

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高齢者介護では公的な介護保険サービスの利用中に私的利益を得ることは従来、法令違反とされてきた。しかし、一部の通所介護施設が法的課題を承知したうえで就労に取り組みはじめた結果、厚生労働省による「平成30年7月27日付事務連絡」が示され、介護サービス利用中の要介護高齢者の就労や地域活動を一定の要件のもとで認める方向性が打ち出された。こうして、本研究が扱う公的介護サービスを利用する要介護高齢者の就労が正式に認められるに至る。

しかし、介護保険サービス利用中の就労は、介護施設のあり方を根本から問い直す取り組みであるが、その効果や課題が学術的に検証されていない。くわえて、公的介護サービスを利用した有償ボランティア活動は、労働法で保護すべき労働者であるのか、論点整理が行われておらず、労働法の観点から、こうした介護サービスにおける高齢者の就労的活動が、労働なのかボランティアなのか、訓練なのか労働か、法令上の解釈が整理されていない。

2. 研究の目的

以上の背景から、本研究では誰もが役割を担うことのできる、地域共生社会の実現に向けて、1) 先駆的に就労・有償ボランティア活動を取り入れた介護施設の実態を調べたうえで、その効果・課題を、2) 就労的活動の効果と実施のための環境整備、3) 施設種別と実施形態・効果、4) 法制度から検証することを目的とする。

3. 研究の方法

1) フィールドワーク

研究期間の当初、コロナ禍の影響で他の施設の訪問が困難であったため、分担研究者が活動の実施に関わり、先駆的な就労活動を実施する「西院デイサービス」を研究が続行可能な場として選定。就労的活動の実践、これに関する職員の業務内容、利用者の所感をインタビューや参与観察を用いたマイクロ・エスノグラフィーの手法により調査・分析した。

2) インターネットおよび電話による実態把握：

介護保険事業所による就労的活動には、補助金が支給されておらず、全国にどの程度、就労的活動を取り入れている事業所があるのか、国も情報を把握していない。そのため、1) のフィールドワークを通して、事業者間のネットワークを元に情報収集を行ったほか、インターネットで「高齢者」、「介護施設」、「就労活動」というキーワードによる検索を行い、高齢者介護施設において、要介護者（要支援者も含む）の参加、「生きがい就労」、「有償ボランティア活動」などの記述が確認された53の介護施設を対象に電話による確認作業を2022年11月から2023年1月に実施し、その時点で活動の継続を確認できた42施設の取組状況を整理し、「施設情報シート」にまとめ、活動の実態を把握した。

3) アンケート調査およびインタビュー調査：

2) で把握された介護施設に対して、就労的活動に参加する高齢者の基本情報、就労的活動の運営体制、事業効果、経営収支などに関するアンケート調査及びアンケート調査後のインタビュー調査を依頼し、調査協力の得られた22施設を対象とした。調査協力者の約7割は事業所管理者（15施設）であり、作業療法士または介護職員（7施設）が約3割を占めた。

4) 法規的検討：

就労者の労働者性や就業に関する法規制を文献調査し、高齢者や障害を持つ労働者に関する法的問題に焦点を当て、介護保険事業所による就労的活動の課題について実態把握を行った。

4. 研究成果

代表的な研究成果を以下に示す。

1) フィールドワーク 金銭的対価が介護保険サービス利用者の生きがいに及ぼす影響^{*1}

就労的活動による金銭的対価が介護保険サービス利用者の生きがいにどのような影響をもたらすか、また、金銭的対価が発生することで利用者が何を得ているのか、生活にどのような影響を及ぼしているのか、マイクロ・エスノグラフィーの手法により調査・分析し、フィールドノーツの記述を概念カテゴリで整理した。その結果、14のコードと7のカテゴリが生成された。7つのカテゴリは、「対象となる活動を「仕事」とであると認識する」「自信と責任を持って活動を行う」「良いストレスを得る」「主体的な試行錯誤によって得た知識や技術を継承する」「生活行為の範囲を拡大する」「自己の行った活動を振り返り、成果を確認する」「社会からの注目を受けて、社会性を発揮する」である。

以上から、金銭的対価が介護保険サービス利用者の生きがいにどのように寄与しているかを分析した結果、生きがいを目的とした就業の支援に用いられる金銭的対価には、【対象となる活動を「仕事」とであると認識する】ように促す意味があることが明らかとなった。そして、この「仕事」の持つ特性によって【自信と責任を持って活動を行う】【良いストレスを得る】【主体的な試行錯誤によって得た知識や技術を継承する】【生活行為の範囲を拡大する】【自己の行った活動を振り返り、成果を確認する】【社会からの注目を受けて、社会性を発揮する】という種々の現象が引き起こされていることが明らかとなった。これらの現象は、利用者の人生の意味付け

表1 具体的内容、コード、カテゴリの対応関係 ※1

具体的内容	コード (構成要素数)	カテゴリ (構成要素数)
A:「仕事やろと思ってきたけど、みんな座ってるから…」 F:「何のお仕事するの？今日は」	〈仕事を求める〉(2)	
B:「今日はちゃんとコーヒー飲んで、仕事のために言えるやろ」 B:「与えられた仕事は一生懸命なあかん。そういう気持ちがある」 F:「デイサービスやめよ思ってたけど、上でやってる仕事あるやろ。だからやめんとおもてん」 F:「お金もらえたらやっぱうれしい。こんなところで仕事して、お金もらえ思てへんもん」	〈仕事の価値に言及する〉(4)	【対象となる活動を「仕事」としてと認識する】(6)
B:「診察来てくれ言われたけど、月曜日はあかん言うて外してもろた」 B:「ちゃんと仕上げるわ」 C:「きびしいですね。製品になるかどうか、お金をもらおうと思ったら」 D:「審査におおらかとおらんかおもてなあ。審査がきついきいかに」 G:「大丈夫、(手) 痛くないです」と特別な道具の使用を断り、みんなと同じやり方で作業をされる G:「仕上げはあの先生(スタッフ) にやってもらわんと」と商品の完成度を気にされる G:「介護職員の「Gさん大丈夫？」という声掛けに対し、「ちょっと一休みします」とバックサポートにもたれかかるも20秒で作業を再開する	〈責任感をもつ〉(7)	【自信と責任を持って活動を行う】(9)
F:「今日は30個できた！私は出来たんや」 G:「Gさんは10個できましたか」という介護職員からの確認に、「そうそう、今回はようけできてるね」と笑顔で成果を認める	〈自信をもつ〉(2)	
D:「私もなんとかできたわ。一生懸命やもん、やりがいはあるわなあ」 B:「そやけどこれ(作業) も大変やでえ。(商品が) どんどん綺麗になっていくから嬉しいけどなあ」 E:「あんな小さいもんで時間かかるやろ？大きいもんやったらもつとかかる。まな板は長い事かかるよ。でも大阪でお店出しはってん。そこに品物出してくれはんねん。あつたかなつたら、連れて行ってくれはんで」 B:「やすりかけんのも難しい、ワックス塗んのも難しい、何すんのも難しい、でもみんな楽しくやってる」	〈苦労の末の喜びに言及する〉(3) 〈困難を楽しむ〉(1)	【良いストレスを得る】(4)
B:「横向きのところは(木目の向きが変わって) ことに気づかずに) 失敗したから、後からなおすの苦労した。そういうことが分かった。今度またするんやったら要領よくなる」	〈試行錯誤する〉(1)	
F:「新しく作業を始めた利用者に「このマ스에書きや」と出席簿への記入を指示しながら、「ほんでファイルにとくねん、前掛けはいるし、ここをなこうやって削るねん」と教える E:「今日はあれ折る仕事やて」とパンフレットを指差し、後輩の利用者に優しく説明する G:「横の角を丸くしすぎんようにねえ、角が残ってるぐらいがちょうど(よい)」と一緒に作業をしている実習生に作業の注意点を説明する	〈新たな参加者に教える〉(3)	【主体的な試行錯誤によって得た知識や技術を継承する】(4)
B:「皆でテラミス食べにいかな、テラミス、テラミス」 A:「買いたいものいっぱいある。口紅とか、今日は足しになったなあ」 F:「商店街一緒に行ったやろ？あそこにお金使いにいくんやて」 F:「三条商店街でうなぎこうてん、チョコレートパフェ食べようとおもてんけど、食べ過ぎたらあかん言われて、わらびもちこうてん」 F:「それ(お金) 使いに行かなあかんから来月いくねん、私知ってんねん、天ぶらのより合わせあんねん、それとお弁当こうてな」	〈買い物に行きたくなる〉(5)	【生活行為の範囲を拡大する】(8)
D:「野菜とかパンとかとっしょに売ってた。あの店もう1回行きたいと思う」 B:「Eさんの「そこ(商品が販売される予定の店舗) に品物出してくれはんねん、あつたかなつたら、連れて行ってくれはんで」という語りかけに「それが楽しみやねん」と返答 E:「〇〇(自分たちが加工した商品が販売される予定の店舗) に行きたいわ、私、つれていってほしいの？」	〈自分たちが加工した商品を見に行きたくなる〉(3)	
B:「(作業療法士の名前) さん、それ私のやんか、大事な、せつかくもうたのに、記念に残しとく」	〈金銭的対価を保存する〉(1)	【自己の行った活動を振り返り、成果を認識する】(2)
施設長:「家の中で、何かお礼ばかり数えてるって言わはって」	〈成果を振り返る〉(1)	
A:「〇〇ちゃん(娘) に明日、(取り組みの代表に) 選ばれたいうて聞いて、うれしかった〜」 B:「(自分たちの加工した商品) 色々な上手な陶器、コップ、花の器とかと一緒に売ってくれてはった。みんな私らの商品もって一生懸命眺めてた。こうしてくれたから余計おどろいた」	〈自分や、自分の加工した商品が注目されていることに言及する〉(2)	
A:「介護職員が「今朝頑張ってくださってありがとうございます」と対価を手渡すと、自然とその場の全員から拍手が起こり、笑顔で周りにお辞儀する A:「授賞式にて、大きな声で「本当にうれしくてたまりません。また、これからも一生懸命にやります。ありがとうございます」と会場に向かって頭を下げる C:「授賞式の帰り、他の授賞式参加者から「よかったです。おめでとうございます」と言われ「ありがとうございます。また京都に帰ったら頑張らなくっちゃ」と話す F:「新聞でてたな言うて近所の人、言うてくれて」	〈他者からの称賛に礼儀正しく応える〉(4)	【社会からの注目を受けて、社会性を発揮する】(6)

※代表的なデータとして示した具体的内容に下線を引いている。

における自己充足の側面だけではなく、公共善の達成の側面にも寄与するものであり、金銭的対価はこの2つの側面から利用者の生きがいに肯定的な影響を与えていることを示唆した。生きがい就業において金銭的対価を活用する場合は、このような効果を意識した計画的な運用が求められることを導いている。

2) インターネットおよび電話による実態把握※2

介護保険事業所による就労的活動の実施状況は、北海道から九州まで42施設が把握された(表1)。42施設の内訳(表2)は、通所系が37施設で全体の約9割で、地域密着通所(19施設)と通所介護(14施設)であった。サ高住は3事例に留まる。1)。42施設の内訳(表2)は、通所

系が37施設で全体の約9割で、地域密着通所（19施設）と通所介護（14施設）であった。サ高住は3事例に留まる。

施設種別と就労活動の内容を「内職」、「製作」、「接客」、「身体的就労」の4区分で見ると、通所介護では4種類の活動が比較的に均等に行われているのに対し、地域密着通所では、「接客」や「身体的就労」といった地域とつながる活動を多く含む。これは、地域密着通所が地域住民との交流や地域活動への参加などの取組に積極的であることが一因と考えられる。

3) アンケート調査およびインタビュー調査：

就労活動に参加する高齢者の男性割合をみると、全体的な男性の割合の中央値は33%と女性より参加が少ない。一方、「身体的就労」への参加割合の中央値は男性の参加割合は67%と高く、手先の器用さが求められる「内職」と「製作」より有意に高いことが確認された。「身体的就労」は男性が取り組みやすい就労活動といえる。

高齢者の平均要介護度を就労内容別にみると（図1）、「内職」、「接客」、「身体的就労」の要介護度の中央値が1.3-1.4に対して、「製作」では要介護度の中央値が1.6と高い。特に、「製作」の要介護度は「身体的就労」より有意に高く、要介護度が高い高齢者も「製作」に参加しやすい実態を把握した。

就労内容ごとに職員配置と活動参加人数から、製作が最も職員配置が少なく、職員1名が平均4.5名の高齢者をサポートしていた。これは高齢者が趣味や経験を活かして自立的に活動するケースが多いためだと考えられる。一方、内職、接客、身体的就労は職員の配置が手厚く、職員1名が約2名の高齢者をサポートしていた。内職は、仕事の速さが要求されること、職員による作業代行が発生すること、また、接客には細やかなサポートが求められること、身体的就労では、屋外活動の安全管理や送迎などが必要なことがその要因として考えられる。

取り組む就労活動のカテゴリ数と事業効果の関係（表5）をみると、

表2 全国の取組状況※2

施設番号	施設所在地	施設類型	定員(名/日)	活動内容	実施場所
1	青森県八戸市	地域密着通所	18	食品加工 漬物販売 農作業	連携企業内
2	青森県八戸市	地域密着通所	10	調理 弁当作り	施設敷地内
3	富山県白山市	通所介護	20	庭整理 洗車 花の水切り	連携企業内 施設敷地内
4	福島県いわき市	地域密着通所	5	カフェ接客 製作物販売 ビラ配布	施設敷地内 施設内 施設周辺地域
5	栃木県那須郡那須町	サ高住	71(戸)	運転 庭整理	施設周辺地域 施設敷地内
6	埼玉県上尾市	地域密着通所	15	弁当作り 弁当販売	施設内 施設周辺地域
7	埼玉県蓮田市	通所介護	22	駄菓子屋店番 農作業	施設内 施設敷地内
8	千葉県船橋市	地域密着通所	10	ティッシュ折り 豆割り 品出し 店舗清掃	連携企業内
9	千葉県船橋市	地域密着通所	10	ティッシュ折り 豆割り 品出し 店舗清掃	連携企業内
10	千葉県船橋市	通所介護	26	ティッシュ折り 豆割り 品出し 店舗清掃	連携企業内
11	千葉県船橋市	地域密着通所	10	シール貼り ビラ配布 スクールガード	施設内 施設周辺地域 連携企業内
12	千葉県船橋市	サ高住	59(戸)	調理 レストラン接客	施設敷地内
13	千葉県柏市	地域密着通所	12	新聞折り	施設内
14	東京都立川市	通所介護	25	新聞折り シール貼り スタンプ押し 製作物販売	施設内
15	東京都町田市	地域密着通所	12	包丁研ぎ ビラ配布 公園のベンチ拭き 洗車	施設内 施設周辺地域 連携企業内
16	東京都八王子市	地域密着通所	8	ビラ配布 洗車 水掃掃除	施設周辺地域 連携企業内
17	神奈川県横浜	地域密着通所	12	手作り品製作 店舗清掃	施設内 連携企業内
18	神奈川県鎌倉市	地域密着通所	9	広告誌の封入作業 手作り品製作 製作品販売 庭整理 公園清掃 花の水やり	施設内 連携企業内 施設周辺地域
19	神奈川県横浜	地域密着通所	15	調理 レストラン接客 弁当販売	施設内 施設敷地内
20	神奈川県相模原市	地域密着通所	13	手作り品製作 庭整理	施設内 施設周辺地域
21	長野県諏訪市	小多機	18	新聞裂く 調理	施設内
22	石川県小松市	地域密着通所	10	温泉受付 庭整理 店舗清掃	施設敷地内
23	石川県金沢市	サ高住	32(戸)	温泉受付 レストラン接客 駄菓子屋店番	施設敷地内
24	福井県鯖江市	認知症通所	12	スーパー商品の配達 店舗清掃 洗車	施設周辺地域 連携企業内
25	愛知県西尾市	通所介護	40	雑巾作成 学習机作成 パンの委託販売 農作業	施設内 施設周辺地域 連携企業内
26	滋賀県長浜市	通所介護	30	農作業 農家物の出荷整備	施設周辺地域
27	東京都京都市	通所介護	35	木工 刺し子作成 洗車	施設内 連携企業内
28	奈良県大和郡山形市	地域密着通所	12	野菜の袋詰め シール貼り 収納箱の袋詰め	施設内
29	奈良県奈良市	通所介護	20	ハンカチの袋詰め トイレレットペーパー巻き バスパー生産 着物どき 弁当づくり	施設内
30	大阪府豊中市	介護老人ホーム	70(戸)	調理 カフェ接客 食器洗浄	施設敷地内
31	大阪府河内郡石川市	介護老人ホーム	90(戸)	公園清掃 庭整理	施設周辺地域
32	大阪府高槻市	地域密着通所	10	チョコレートの袋詰め 絵員の繕作り マスク梱包	施設内
33	兵庫県神戸市	地域密着通所	10	新聞折り 雑巾作成 カフェ接客 農作業	施設内 施設敷地内 連携企業内
34	岡山県井原市	認知症通所	12	にんにくの皮取り 農作業	施設内 連携企業内
35	岡山県倉敷市	通所介護	30	調理 パン屋さんの接客	施設敷地内
36	香川県三豊市	認知症通所	10	野菜の販売 農作業 農家物の出荷整備	連携企業内
37	福岡県福岡市	通所介護	30	木工 ミシン 革細工	施設内
38	鹿児島県大牟田市	通所介護	55	クロネコDM便の配達	施設周辺地域
39	鹿児島県鹿屋市	地域密着通所	10	積み木作成	施設内
40	鹿児島県霧島市	通所介護	30	シール貼り	施設内
41	鹿児島県霧島市	通所介護	40	スタンプ押し 小学校遊具のペンキ塗り 小学校でのあいさつ運動	施設内 連携企業内
42	鹿児島県姪浜市	通所介護	40	シール貼り 新聞折り スタンプ押し ハンガー消毒	施設内

凡例：内職 製作 接客 身体的就労

注：認知症通所は、認知症対応型通所介護を示す。地域密着通所は、地域密着型通所介護を示す。小多機は、小規模多機能型居宅介護を示す。サ高住は、サービス付き高齢者向け住宅を示す。

表3 施設種別と就労活動

施設種別	通所系					住宅系			
	認知症通所	地域密着通所	小多機	通所介護	合計	サ高住	軽費老人ホーム	介護老人ホーム	合計
施設数	3	19	1	14	37	3	1	1	5
活動内容	内職	1	11	1	12	25			
	製作		10	1	11	22	1		1
	接客	2	18		8	28	5		1
	身体的就労	5	17		10	32	1	2	1
	割合								
実施場所	施設内	1	18	2	27	48			
	施設敷地内		10		5	15	6		3
	施設周辺地域	1	7		5	13	1	2	3
	連携企業内	6	21		4	31			
割合									

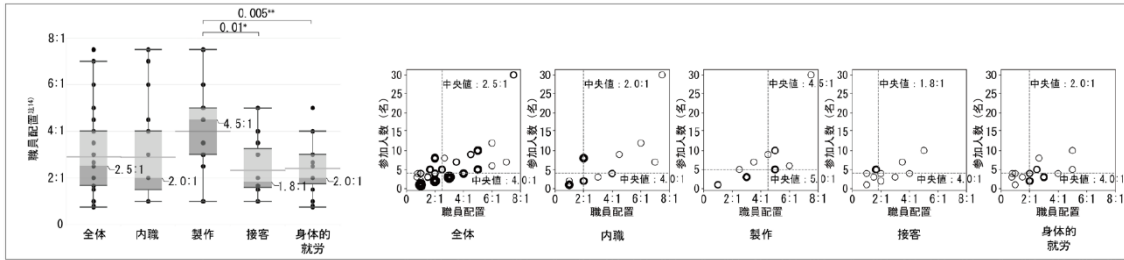


図1 就労的内容別の職員配置※2

約4割の施設(9施設)は1カテゴリに留まるが、その一方、2カテゴリ以上の就労的活動を実施する施設が6割あった。複数の活動に取り組む施設のほうが、効果を高く評価する傾向がみられ、活動の多様化と事業効果の認識が相互に結びつく実態がみられた。

アンケートで課題を確認した結果(表5)、「就労機会・受入れ先の開拓が難しい」が約6割で、大きな課題であった。インタビューから、「就労活動の選択肢不足」「担当者(作業療法士など)の異動の影響を受ける」「ケアマネジャーから高齢者を紹介してもらえない」、「企業とのマッチングが難しい」などの指摘があった。一方、経営面では、「就労活動を経済的に事業化することが難しい」、「売上アップと高齢者の賃金アップ」などの課題も指摘された。

表4 就労的活動カテゴリ数別の事業効果※2

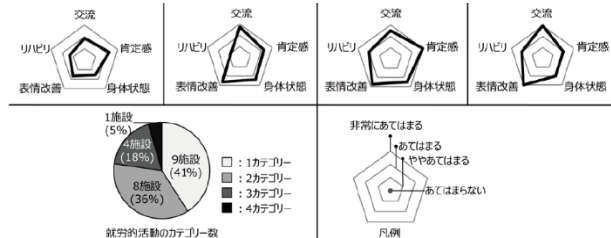


表5 就労活動の事業課題※2

事業課題	意欲・能力がある 高齢者の不足	意欲・能力がある 職員の不足	就労機会・受入れ 先の開拓の難しさ	事業所内での支援と 就労活動の両立の難しさ
非常にあてはまる	1		3	1
あてはまる	2	1	7	4
ややあてはまる	8	5	3	6
あてはまらない	11	16	9	11
割合				

4) 法規的検討※3, 4

教育・訓練的作業従事者の個別的労働関係法(労働契約法、労働基準法等)上の労働者性に係る学説、判例・裁判例を中心に考慮要素を概観し、判断枠組みを再検討した。「使用されて労働」し、「賃金を支払われる」という労働者の定義において、「使用されて労働」の要素は、「使用」と「労働」とに分けられ、教育・訓練的作業従事者については、「労働」性が問題とされることが多い。この「労働」性は、「生産活動」性(活動自体から利益が生じるか)と「使用者への利益帰属」性(活動から生じた利益が使用者に帰属するか)という2つに概念に細分化可能であり、「賃金を支払われる」の要素は、この「使用されて労働」の推定要素(特に、前記の生産活動性の推定要素)と解されるので、相対的には重要性が低い(形式的にこの要素が欠けるようにみえても直ちに労働者性を否定できない)、という知見が得られた。このことから、作業等に従事する高齢者が「指示を受ける」という点で「使用」性を充足していても、「生産活動」性が不十分な場合には研修や訓練と判断され、法の規制を外れたり、他方で「指示」下の作業で生じる危険性につき、労災保険のような公的制度の保護が欠けたりしやすいことが示唆される。

また、障害・傷病を持つ労働者への配慮義務に関連して、特に中途障害を負った労働者が従前の業務を行えず、また労働者の求める配慮が過重な負担となる場合に退職扱い等が可能かという点の裁判例を検討した。配慮が過度な負担となり、かつ労働者の意思で他業務・部署等への配置が困難な場合には、解雇・退職扱いを認めた裁判例が存在すること、労働者の意向の確認に十分な情報提供の必要性があることが示された。障害者に該当しない一時的傷病者、就労能力に制限を生じた高齢者にも、基本的には合理的配慮が求められるところ、この帰結は、過重な配慮がなければ就労不能な場合にまで雇用継続を使用者に強いるものでないことを示すと思われる。

<引用文献>

- ※1 永井邦明、川崎一平、小川敬之ほか4名：介護保険サービス利用者の生きがい就業における金銭的対価の意義、労働科学 97 巻 1 号、pp1-13、2021
- ※2 尤コン琦、三浦 研：介護施設における要介護高齢者の就労活動の実態と課題 - 全国の実施事業所へのアンケート・インタビュー調査に基づく分析 -、日本建築学会計画系論文集 820 巻、pp1009-1019、2024.6 掲載予定
- ※3 富永晃一：「訓練」と「雇用」の境界の判断について、日本認知症ケア学会誌 20-4、2022.1
- ※4 富永晃一：「中途障害労働者の「債務の本旨に従った履行の提供」と使用者の「合理的配慮義務」「解雇回避努力義務」-日東電工事件[大阪高裁令和 3. 7. 30 判決]」ジュリスト 1576 号 150 頁、2022. 10

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 永井邦明, 川崎一平, 原田瞬, 佐川佳南枝, 森本誠司, 小川敬之, 小川芳徳	4. 巻 97(2)
2. 論文標題 通所介護事業所における生きがい就業支援の実態～具体的な支援の方法に焦点を当てて～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 労働科学	6. 最初と最後の頁 48-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永井邦明, 川崎一平, 原田瞬, 佐川佳南枝, 森本誠司, 小川敬之, 田端重樹, 小川芳徳	4. 巻 98(1)
2. 論文標題 介護保険サービス利用者の生きがい就業を支援する意義 通所介護事業所の所長が支援を始めるまでのライフストーリーの分析から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 労働科学	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永井邦明, 原田瞬, 川崎一平, 恵濃雄一, 鈴木さなえ	4. 巻 8
2. 論文標題 作業療法士と管理栄養士の連携が, BMIの適正化と活動性の改善に与える効果の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 京都府作業療法士会学術誌	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永井邦明	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 生活のための環境整備	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床作業療法NOVA 認知症の人の生活と作業療法	6. 最初と最後の頁 53-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎一平	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 認知症の人の生活と作業療法	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床作業療法NOVA 認知症の人の生活と作業療法	6. 最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ippei Kawasaki, Kuniaki Nagai, Yoshihisa Masumitsu, Kanae Sagawa, Satoshi Kondo	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 Generational differences in coping behavior against occupational deprivation during COVID-19 pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Occupational Science	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32191/jjos.16.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川敬之、中井秀明、川崎一平、永井邦明、原田瞬	4. 巻 273
2. 論文標題 認知症の人と一緒に仕事をすることで生まれるQOL	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MEDICAL REHABILITATION	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Honjo Y, Kawasaki I, Nagai K, Harada S, Ogawa N	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 Neuropsychiatric Inventory Questionnaire Associated with Cognitive Function, Age, and Duration of Education in Patients with Alzheimer's Disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Dement Geriatr Cogn Disord	6. 最初と最後の頁 285-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000525670	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hajime Takechi , Naoko Hara , Kyoko Eguchi , Shoko Inomata , Yuki Okura , Miwa Shibuya , Hiroshi Yoshino , Noriyuki Ogawa and Morio Suzuki	4. 巻 20(6)
2. 論文標題 Dynamics of Interaction among Professionals, Informal Supporters, and Family Caregivers of People with Dementia along the Dementia Care Pathway: A Nationwide Survey in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Int. J. Environ. Res. Public Health	6. 最初と最後の頁 5044
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph20065044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Itotani , Ippei Suganuma , Seiji Morimoto , Hideaki Nakai and Noriyuki Ogawa	4. 巻 13(3)
2. 論文標題 The Relationship between Restrictions on Going Out and Motor Imagery among Medical University Students in Japan - Research with Small Samples	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Life (Basel)	6. 最初と最後の頁 797
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ life13030797	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富永晃一	4. 巻 1576号
2. 論文標題 中途障害労働者の「債務の本旨に従った履行の提供」と使用者の「合理的配慮義務」「解雇回避努力義務」：日東電工事件[大阪高裁令和3.7.30判決]	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジュリスト	6. 最初と最後の頁 150,153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 研	4. 巻 20(4)
2. 論文標題 認知症高齢者の就労による社会参加と新しい地域づくり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 502-510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永 晃一	4. 巻 20(4)
2. 論文標題 高齢者の働く 法律の視点から 「訓練」と「雇用」の境界の判断について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 511-518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikuo Eguchii, Tohru Sonoda, Noriyuki Ogawa	4. 巻 No.69
2. 論文標題 Relationship Between Medication Independence and Medication Caregiver's Burden during Medication-Assisted Process for Patients with Alzheimer's Disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese society of occupational medicine and traumatology	6. 最初と最後の頁 165-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ippei Kawasaki, Shun Harada, Kuniaki Nagai, Noriyuki Ogawa, Hajime Takechi, Naoko Hara, Kyoko Eguchi, Kazuo Kariyama	4. 巻 第39巻、2号
2. 論文標題 Analysis of Latent Factors Underlying Conceptions of People with Dementia and the Effects of Social Resources	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biomedical Journal of Scientific & Technical Research	6. 最初と最後の頁 21136-31143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.26717/BJSTR.2021.39.006271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永井 邦明, 原田 瞬, 川崎 一平, 佐川佳南枝, 森本 誠司, 小川 敬之, 小川 芳徳	4. 巻 第97巻、1号
2. 論文標題 介護保険サービス利用者の生きがい就業における金銭的対価の意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 労働科学	6. 最初と最後の頁 1 - 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河本歩美, 田端重樹, 小川敬之	4. 巻 第20巻, 4号
2. 論文標題 地域共生社会に向けた就労的活動の 実践報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 591-523
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川敬之, 中井秀昭, 川崎一平, 永井邦明, 原田瞬	4. 巻 No.273
2. 論文標題 認知症の人と一緒に仕事をすることで生まれるQOL	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Med Reha	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原田瞬, 永井邦明, 川崎一平, 吉田健, 小川敬之	4. 巻 11巻, 1号
2. 論文標題 COVID-19流行下における団地高齢者と大学生のリモート型世代間交流の実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世代間交流学会	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中井秀昭, 川崎一平, 小室雅紀, 島川昌典, 小川敬之
2. 発表標題 病院・介護事業所での農作業活用の可能性と課題 - 滋賀県作業療法士会の3年間の活動からの考察 -
3. 学会等名 日本作業療法士協会 第56回日本作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川敬之
2. 発表標題 地域共生社会に向けた就労的軽道の取り組み
3. 学会等名 京都市右京区プライマリー医療研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川敬之
2. 発表標題 認知症の深い理解
3. 学会等名 第19回青葉区認知症勉強会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三浦 研
2. 発表標題 今、なぜ高齢者施設の就労参加なのか
3. 学会等名 第44回ESSENCE研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原 等子, 小川 敬之, 苅山 和生, 江口 恭子, 尾之内 直美, 秋田谷 一, 杉山 孝博, 武地 一
2. 発表標題 「認知症にかかわる支援者の認知症および認知症ケアに対する認識 認知症の支援者の調査から」
3. 学会等名 第22回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田 瞬, 川崎 一平, 永井 邦明, 小川 敬之
2. 発表標題 「地域活性化を目的とした世代間交流の取り組み コロナに配慮したリモート型健康イベント実践を通しての発見」
3. 学会等名 第55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎一平、Jude Inbaraj、Vavani Yogalingam、寺村晁、濱田光佑、原田瞬
2. 発表標題 A practice on management of the Independent Living Center and the disseminations of occupational therapy in Malaysia
3. 学会等名 第41回近畿作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎一平、佐川佳南枝、益満美寿、永井邦明、近藤敏
2. 発表標題 COVID-19流行下における高齢者の作業剥奪状態の調査研究 - 世代間比較と新しい生活への適応 -
3. 学会等名 第55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永井邦明、佐川佳南枝、益満美寿、川崎一平、近藤敏
2. 発表標題 高齢者を対象とした「ものづくり教室」のオンライン化の試み
3. 学会等名 第55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 飯干紀代子：編、小川敬之、他19名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三輪書店	5. 総ページ数 146
3. 書名 メモリーブックの活用法	

1. 著者名 谷川良博：編、小川敬之、他32名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青海社	5. 総ページ数 181
3. 書名 作業療法NOVA 認知症の作業療法	

1. 著者名 矢谷玲子、福田恵美子、藤井浩美：編、小川敬之、他60名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 CBR	5. 総ページ数 356
3. 書名 日本の作業療法発達史	

1. 著者名 谷川良博：編、川崎一平、他32名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青海社	5. 総ページ数 181
3. 書名 作業療法NOVA 「観察力と認知症の作業療法過程各論、学びと観察」	

1. 著者名 谷川良博：編、永井邦明、他32名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青海社	5. 総ページ数 181
3. 書名 作業療法NOVA 「分析における観察のポイントと工程分析の方法」	

1. 著者名 永井邦明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都府作業療法士会	5. 総ページ数 12
3. 書名 京都府作業療法士会 ニュースNo.15【MTDLP推進委員会からのお知らせ】～MTDLPの部分的な活用のすすめ～	

1. 著者名 永井邦明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都府作業療法士会	5. 総ページ数 12
3. 書名 京都府作業療法士会 ニュースNo.16【MTDLP推進委員会からのお知らせ】～急性期・回復期・維持期でMTDLPを用いる際のポイント～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川崎 一平 (KAWASAKI IPPEI) (20848725)	京都橘大学・健康科学部・助教C (34309)	
研究分担者	富永 晃一 (TOMINAGA KOUICHI) (30436498)	上智大学・法学部・教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 敬之 (OGAWA TAKAYUKI) (50331153)	京都橋大学・健康科学部・教授 (34309)	
研究分担者	永井 邦明 (NAGAI KUNIAKI) (80823567)	令和健康科学大学・リハビリテーション学部・助教 (37131)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	尤 コンキ (YUU KONKI)	京都大学・大学院工学研究科・博士後期課程 (14301)	
研究協力者	加茂 永梨佳 (KAMO ERIKA)	神戸大学・大学院保健学研究科・博士後期課程 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関